

## 第 37 回 START プログラム (ベトナム)

2017 年 2 月 22 日から 3 月 8 日までの約 2 週間、第 37 回 START プログラムに学部 1 年生 24 名が参加し、田北冬子特任講師（外国語教育研究センター）ほか 3 名の引率職員とともに、ベトナムのホーチミン市にあるベトナム国家大学ホーチミン市校人文社会科学大学（USSH）とその周辺地域を訪問しました。

USSH では、現地教員による英語での「ベトナム語学習」の他、「日越関係」、「ベトナムの歴史」、「戦争体験談」、「ベトナムの経済発展」、「ベトナムの社会と文化」についての講義を受けました。授業中は、慣れない英語での講義やレポート作成に戸惑いつつも、自ら何かを学ぼうと講師の先生に積極的に質問をする学生たちの姿が見られました。

また、同大学日本学部の学生と「平和な世界をつくるために出来ること」についてのディスカッションを行い、ベトナム人の同年代の学生と平和について共に考え、共に学びました。なお、ホーチミン市環境資源大学を訪問した際においても、環境問題や学生生活などベトナムと日本との違いについて、同大学の学生と英語によるディスカッション・発表を行いました。

大学外では、USSH の学生とともに訪れた歴史や戦争に関する博物館、旧南ベトナム政府大統領官邸の見学で意見交換を行い、日本について学ぶベトナム人学生や社会人らのサークル「東日クラブ」との交流を行いました。また、JICA の ODA 施設見学や工業団地、日系企業などを訪問し、ベトナムで活躍する日本人の声を聞く機会も多くあり、将来留学や海外での勤務を意識している学生は熱心に質問していました。その他にも、ホームビジット体験や孤児院、カンザー自然保護区のマングローブ林、クチトンネル、イオンモールなどを訪問し、ベトナムの自然や歴史、経済発展を肌で感じ、学び取っていました。

渡航直後は生活、文化、食事など多くのことに戸惑っていた学生も、積極的にベトナム人学生と触れ合うことで、資料では見ることも出来ない現地の生活を知り、日本とは異なる価値観に触れたりする中で次第にたくましくなったように感じられました。

帰国後の事後研修では、本プログラムを通して学んだこと及び今後の目標や抱負（大学生活や将来の夢）について、各々が英語によるプレゼンテーションを行い、目標に向かっていく決意を発表しました。

学生たちは、交流を通じて仲良くなった現地の学生と、SNS 等を通じてつながっています。今後もそれらを活用し、その絆を大切に大きく成長していくことを期待しています。



サイゴン大教会前での記念撮影



「平和な世界をつくるために出来ること」の  
ディスカッションの様子



環境資源大学の学生との  
ディスカッションの様子



カンザー自然保護区のマングローブ林で  
現地ガイドの説明を聞く学生たち